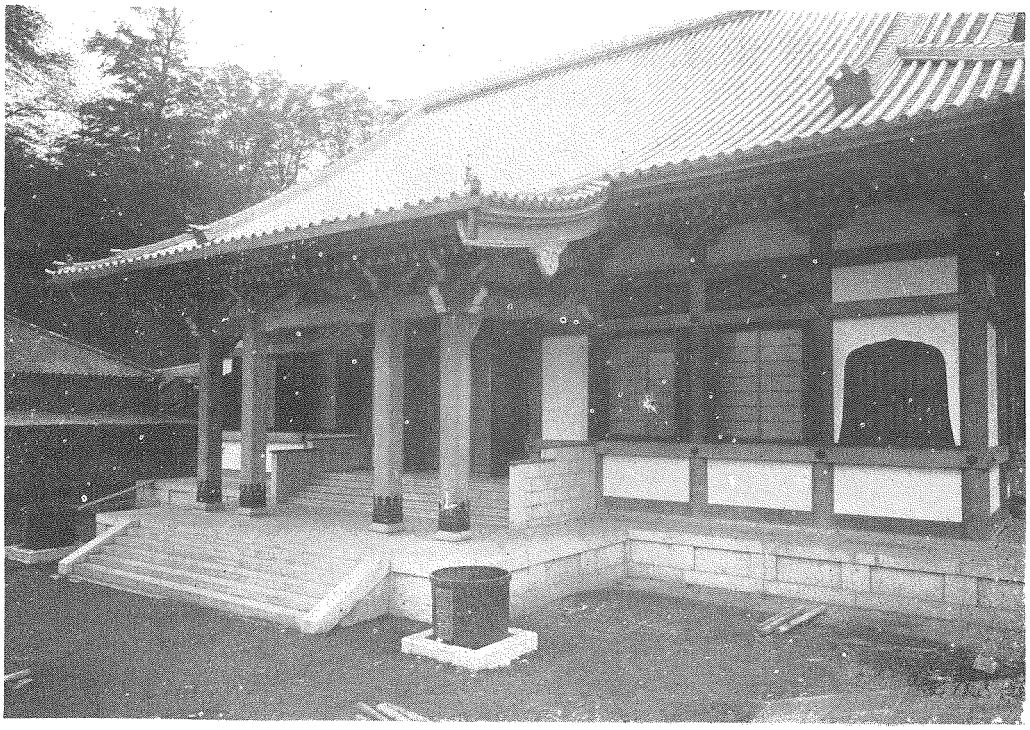
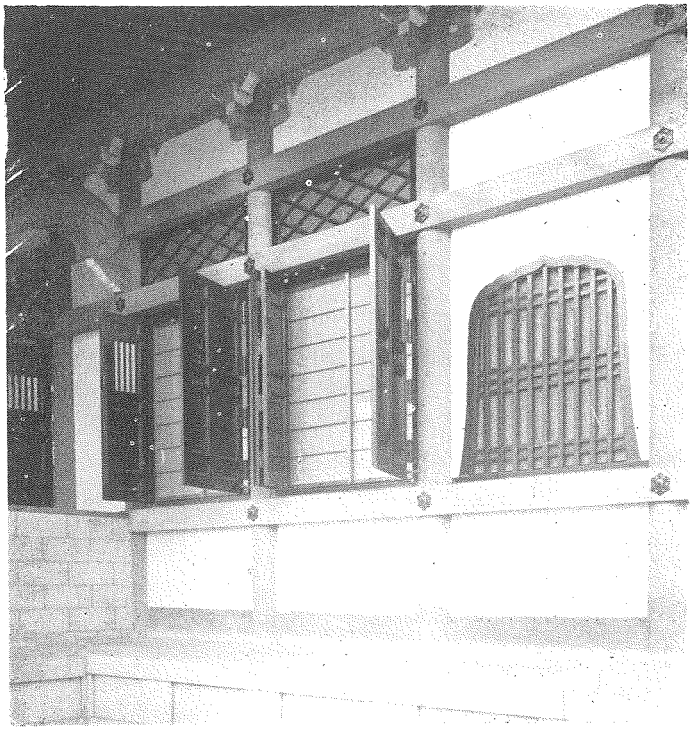


1

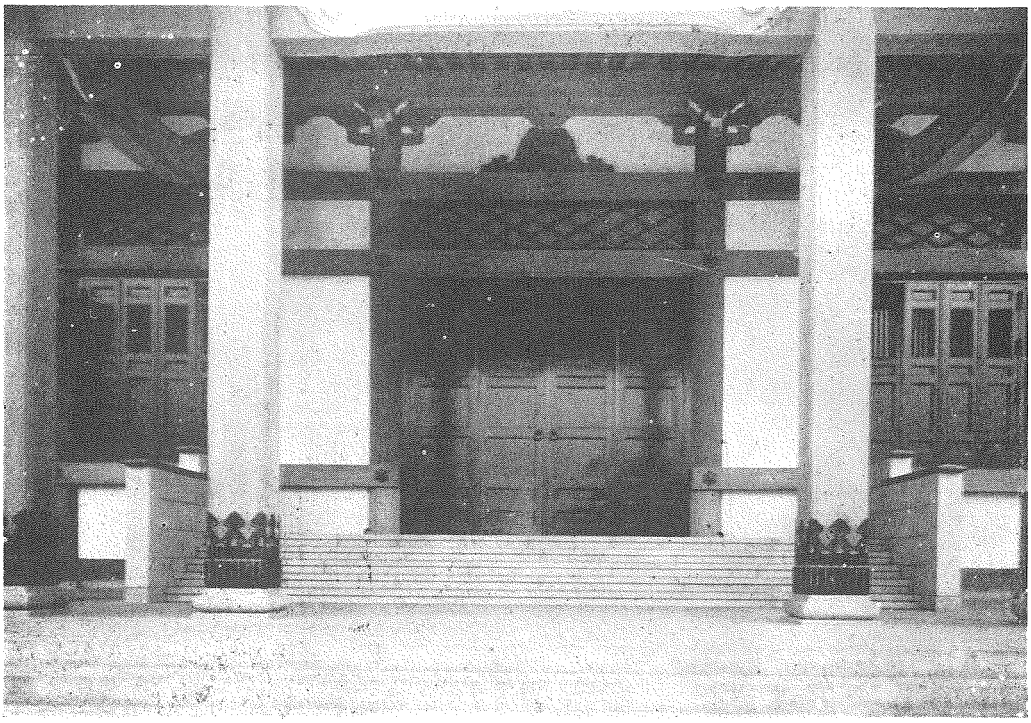
竣功したる
萬年山青松寺

江戸三刹の一たる芝區愛宕町の萬年山青松寺再建工事に就ては、既に昨年十月號にその工事寫眞及概要を掲げて報導した處であるが此の古い歴史を有する名刹は鐵骨筋混凝土造と云ふモダン寺院として此程竣功を告げた。混凝土の寺院はこれが最初ではない。然しこの建築は新時代の寺院建築としていくつかの新記錄をつくつた。

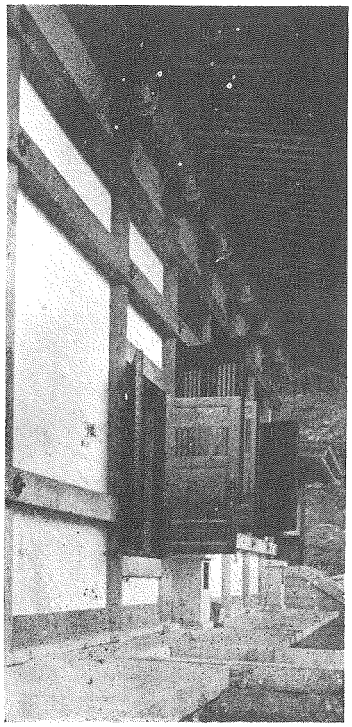
寫眞は (1)全景。(2)火燈窓廻り。(3)正面向拜。(4 軒下側面。( )と(4)は一枚の寫眞である。



2



3



4

社寺建築は今や木造時代を過ぎて混凝土時代に入つて來た然し如何なる樣式に進むべきかと云ふ問題には研究の餘地があると思ふ。社寺の性質が自分達建築家仲間のものでなく大衆性を持つてるものだから、因習を脫することが出來ない。また因習を脫しないことが一番無難で、段々と改めて行つて或時期に到つて本當の構造材料からくる無理のない立派な樣式が生れるのではなからうか‥‥あまり遠くない將來に。

柱は、寺院にしろ社殿にしろ皆太くなるに苦しむ、震災記念堂もそう聞いてゐるが、青松寺ではグレーコラムを採用して成る可く細くした本堂(柱)を尺六寸に仕上るには一寸骨な處もあつたが、出來て見ると丁度良いプロポーションになつた。横架材は大して困難と思はれた處はない。軒の問題は誰しも苦しむが明治神宮の寶物殿は荷重を輕量にするため銅版を用いた。勿論校倉式でもあるしちつとも氣にならない。然し寺院は柱と同じ材料で行き度いので、之等をブロック（鐵筋入）及びリブラスで構成した。スペースの廣い處が少いためかクラックの來てゐる處は殆んどない。外裝の色は隨分方々歩いて苦心したが歌舞伎座式の塗料、震災記念堂式の自然色のと比較して決定した。意匠や構造材料の詳細に關しては後日記すべき時機があると思ふ。(青松寺建築現場監督主任池田正己氏談)

尙此建築の設計は三輪建築事務所請負は伊藤平左衞門建築事務所である。工事の概要は本誌昨年十月號を參照されたい。